

プロローグ

筆者は大学の授業において“Reading & Writing”を重視するクラスと“Speaking & Listening”を中心にするクラスをここ数年担当している。当初は“Reading”や“Speaking”が中心で進められていたが、現在では4技能を連動させるように、各大学の語学の科目が科目名で表現されていなくても、その内容において2技能を組み合わせて授業内容が構成されることが多くなった。時代の変化や授業内容の変化もあるが、わからないことを調べるには辞書の存在が重要であることは変わらない。

筆者は2017年度より学生がどのように辞書を活用しているのかをアンケートを継続的に行なっているが、その結果は単純ではない。本研究會誌第12号に発表した「英語辞書に関する学生の意識について」

(佐々木 e) の内容に2020年と2021年の調査内容を加えて再検討を行った。

本稿では学生の英語辞書に関する意識を知ること、さらにデジタル化の流れを念頭に置き、英語辞書の活用を指導上でどのように役立てることができかを考察していきたい。

1 学生の英語辞書の利用状況について

筆者はこれまで学生の英語辞書の活用について取り上げてきたが(佐々木 a) (佐々木 b) (佐々木 c) (佐々木 d) (佐々木 e)、英語辞書について、実際どのような利用状況であるかを“Reading & Writing”を重視するクラスにおいて、2017年4月14日、2018年10月26日、2019年4月12日、2020年10月23日、2021年4月16日に調査を行った。

調査に際しては事前の説明等を行わず、主に大学生になってからの状況として尋ねた。なお、調査結果は 分母が異なるため、割合で表示する。

調査対象：(2017年：大学2年生102名、2018年：大学1・2年生59名、2019年：大学1・2年生69名、2020年：大学1・2年生48名、2021年：大学1・2年生43名)

(英語の選択必修科目・英語を専門にしない学部・学科に所属)

「Q1 あなたはふだんどんな英語辞書をメインに使っていますか」

なお、回答については複数回答なしとした。

- A 紙辞書 B 電子辞書 C スマホ等の内蔵辞書
D オンライン辞書

	紙辞書	電子辞書	スマホ等内蔵辞書	オンライン辞書	未回答
2017 調査結果	4.9%	42.2%	33.3%	19.6%	0%
2018 調査結果	3.4%	52.5%	33.9%	10.2%	0%
2019 調査結果	10.2%	59.4%	17.4%	11.6%	1.4%
2020 調査結果	11.4%	28.2%	30.6%	29.8%	0%
2021 調査結果	2.3%	48.8%	25.6%	23.2%	0%

(2017年は2018～2021年の調査結果と比較するため、一部改変)

筆者は「英語辞書に関する学生の意識について」(2020)において、2017年と2019年の調査より以下のような分析を行った。

学生は電子辞書等を使用しているが、筆者の当初の見込みと大きく異なっていたのが、オンライン、インターネット上の辞典の使用状況である。今回のアンケートでは細かな質問はしなかったが、学生の多くが単語の意味を調べるために使用している例が多いということだ。例文などのところまで立ち入っていないのである。紙辞書にしる電子辞書にしる、辞書そのものの活用について理解していないことがわかって来た。単語を簡単に調べられる、荷物にならないという点で電子辞書を活用している事例が散見された。(佐々木 e 14)

調査時期は4月中(網掛)、そうでないところが10月に実際したが、この実施時期によって違いがあるのかどうかも確かなことは言えない。もうひとつ背景として大きく異なることは2020年度が前期・後期を通してCOVID-19の影響により、遠隔授業で実施したということだ。こうした背景から紙辞書とオンライン辞書の利用がかなり増加するのではないかというのが筆者の予想であった。その理由は紙辞書の最大の短所が「重く、大きく持ち運びにくい」(佐々木 e3)、オンライン辞書の短所が「ブラウザ(サイト)を開くのが面倒」「ネット環境が無ければ使えない。圏外だと使えない」「情報が多すぎる」「広告が邪魔」「充電がなくなると使えなくなる」「別のサイトを見てしまう」「目が疲れる。検索が少々遅い」(佐々木 e5)であったが、学生が自宅にいることが多くなったことでこの短所が解消されているため、調査にどのような影響があったのかということだ。

また、2021年度の調査は4月に実施したが、前年度のCOVID-19による遠隔授業での影響がかなり残るのではないかというものだ。従って仮説としては、紙辞書とオンライン辞書の割合が2020年度と2021年

度は増加し、電子辞書とスマホ等内蔵辞書の割合は減少するのではないかと考えていた。

仮説と実際の調査結果で、合致しないところは「紙辞書」の活用度がそれほど高くならなかったこと、「スマホ等内蔵辞書」の活用度が減少していないという点だ。

2 学生が感じている英語辞書への意識の変化について

2019年度以降の調査では自由記述も実施したため、各辞書の長所と短所を記載してもらった。以下、同じような表現のものは省略し、列挙していきたい。なお、取り上げた順番には特に意味はない。

紙辞書の長所 2019年度調査結果

- ・例文が豊富。
- ・関連した語や簡単な例文が同時にわかる。
- ・調べる単語や文章を以外を見れる。
- ・自分で探すことによって記憶に残りやすい。
- ・書き込みができる。(付箋がはれる、マーカーが引きける)

紙辞書の長所 2020年度調査結果

- ・書き込みができる。(付箋がはれる、マーカーが引きける)
- ・他の単語も目に入る。
- ・単語のたくさんの意味を調べることができる。
- ・関連語や例文が記載されている。

紙辞書の長所 2021年度調査結果

- ・網羅性が高い。(情報量が多い)
- ・いろいろな単語が目に入る。

- ・書き込みができる。(付箋がはれる、マーカーが引きける)
- ・用法を見ることができる。

紙辞書の短所 2019年度調査結果

- ・重く、大きく持ち運びにくい。
- ・使用者が慣れないと調べるのに時間がかかる。
- ・発音が聞けない。

紙辞書の短所 2020年度調査結果

- ・調べるのに時間がかかる。
- ・重たい。持ち運びが不便。
- ・常に最新ではない。

紙辞書の短所 2021年度調査結果

- ・調べるのに時間がかかる。
- ・持ち運びにくい。
- ・発音が聞けない。

電子辞書の長所 2019年度調査結果

- ・慣れていなくても瞬時に調べられる。
- ・発音・アクセントも同時に調べられる(理解できる)。
- ・小さく、軽いため、持ち運びに便利。
- ・複数の辞書を所有できる。

電子辞書の長所 2020年度調査結果

- ・探しさやすい。簡単に調べられる。
- ・持ち運びやすい。
- ・複数の辞書が内蔵されており調べ学習に最適

- ・発音などを正確にわかる。

電子辞書の長所 2021年度調査結果

- ・簡単に調べられる。
- ・持ち運びが便利。
- ・複数の辞書が内蔵されている。
- ・発音・アクセントも同時に調べられる（理解できる）。

電子辞書の短所 2019年度調査結果

- ・紙辞書に比べると情報量が少ない。
- ・イデオムや例文が調べにくい。または、調べられないことがある。
- ・調べた時だけわかって何日かしたらすぐに忘れる。
- ・調べた単語しか調べられない。（表示されない）
- ・文字を打つのに時間がかかる。
- ・字が小さくて、調べにくい。
- ・本体そのもの、電池なども費用がかかる。バッテリーが切れると使えない。
- ・ラインマーカーをひけない。
- ・すぐ忘れてしまう。

電子辞書の短所 2020年度調査結果

- ・メモが記入できない。
- ・壊れやすい。高価。
- ・電池がなくなると使えない。充電が必要。
- ・見出し語で前後の言葉に興味が出にくい。
- ・記載分量が少ない。
- ・すぐ忘れてしまう。

電子辞書の短所 2021年度調査結果

- ・電池がなくなると使えない。充電が必要。
- ・一度に見れる情報量が少ない。
- ・熟語が検索しにくい。
- ・書き込みができない。

スマホ等内蔵辞書の長所 2019年度調査結果

- ・スマホ内にあるから荷物にならない。結果がすぐ出てくる。
- ・片手ですぐ調べられる。
- ・操作が慣れている。
- ・紙辞書や電子辞書と違い、必ず携帯しているのでいつでも利用できる。
- ・無料。
- ・スペルがわからなくても音声で検索できる。

スマホ等内蔵辞書の長所 2020年度調査結果

- ・いつでもどこでも調べることができる。
- ・起動しやすい。手軽に使いやすい。
- ・持ち運びが容易。軽い。
- ・英文翻訳ができる。

スマホ等内蔵辞書の長所 2021年度調査結果

- ・いつでもどこでも調べることができる。
- ・オフラインでも知らべられる。
- ・起動しやすい。手軽に使いやすい。
- ・英文翻訳ができる。

スマホ等内蔵辞書の短所 2019年度調査結果

- ・自分の力にはあまりならない。
- ・調べた単語しか調べられない。(表示されない)
- ・正確な訳が出て来づらい。
- ・授業中使うと怒られる。禁止されている。授業中使うと、関係ないことに使っていると思われる。
- ・他のゲームをしてしまう。他の機能を使ってしまう。
- ・すぐ忘れてしまう。

スマホ等内蔵辞書の短所 2020年度調査結果

- ・メモ書きができない。
- ・画面が小さく拡大しないと文字が見にくい
- ・調べたことを忘れてしまいがち
- ・電子辞書と比べると正確性に欠ける。
- ・例文などの近い方が確認できない。
- ・電力を食う。

スマホ等内蔵辞書の短所 2021年度調査結果

- ・目が疲れる。
- ・1つの単語に対して訳の個数がかなり限定的。(少ない)
- ・電力を食う。
- ・すぐに調べられるため、自分で考える力が低下する。

オンライン辞書の長所 2019年度調査結果

- ・構文や熟語を調べるのが楽。
- ・少し打てば単語が出てくるので楽。
- ・いつでもどこでも利用できる。
- ・オンライン上で他に気になったこともすぐ調べられる。他のサイトでも情報が得られる。

- ・用例が多い。
- ・速い。(使い慣れているのですぐに調べられる)
- ・最新の情報がくみこまれていそう。音声付。

オンライン辞書の長所 2020 年度調査結果

- ・常に最新の情報が手に入る。
- ・情報量が豊富。
- ・英文翻訳ができる。
- ・発音まで聴ける
- ・だいたい無料で多くの辞書を使える

オンライン辞書の長所 2021 年度調査結果

- ・情報量が多い。
- ・無料。(辞書を買わなくてもいい)
- ・いつでもどこでも調べられる。

オンライン辞書の短所 2019 年度調査結果

- ・間違っていたりする。
- ・ブラウザ(サイト)を開くのが面倒。
- ・ネット環境が無ければ使えない。圏外だと使えない。
- ・情報が多すぎる。
- ・広告が邪魔。
- ・充電がなくなると使えなくなる。
- ・別のサイトを見てしまう。
- ・目が疲れる。検索が少々遅い。
- ・記憶に残らない。

オンライン辞書の短所 2020 年度調査結果

- ・メモ書きできない。
- ・サイトによって有料なものがある。
- ・ネット環境が影響する。
- ・信憑性の問題がある。
- ・すぐに忘れてしまう。

オンライン辞書の短所 2021 年度調査結果

- ・ネット環境が影響する。
- ・情報が多すぎて、内容を選ぶのに苦労する。
- ・偽りの情報がある。
- ・書き込みができない。

筆者が実施したのは複数回答不可で回答してもらったため、オンライン辞書をメイン使用している比率はわかる。高橋渉他「英語教育における辞書の活用—新学習指導要領に対応して—」(2014)では「3種類の辞書使用に関する意見」では82名の大学生の調査があり、そこでは教科書のワードリスト、英語の紙辞書、電子辞書、オンライン辞書等で複数回答ありのアンケートであるが、電子辞書83%、オンライン辞書48%の回答であった。(高橋他 5) さらに次のような指摘もある。

注目に値することは、中学校時及び高校時にはゼロにも関わらず現在は21%がインターネットのオンライン辞書を最もよく使用すると答えていることである。大学生は学業にも娯楽にもオンラインで過ごす時間が増えるため、インターネットのオンライン辞書の使用も増えるのは当然と言えよう。(高橋他 6)

また、使用辞書の意見として、電子辞書のいわゆる長所と短所についても意見が掲載されているので紹介しておきたい。

長所

- ・文字を打つだけで簡単に調べられるところ／複数の辞書が入っていて、いろいろな辞書で意味を調べられる／音声が開ける／コンパクト

短所

- ・訳がたくさん出てきて、どの訳があっているかがわからない時がある／いろいろ出てきすぎてよくわからないところ／壊れやすい／長文が出てこない／例文がすぐに見られない（高橋他 5）

筆者が行った結果を見ても内容的大きな変化はない。学生が感じている電子辞書に対する長所と短所は概して同じである。学生は電子辞書に限らず、それぞれの長所と短所を理解しつつ利用している。高橋等はオンライン辞書についての意見は集約していないが、大きな差異はないのではないかと思われる。

なお、2021年4月の調査では新しく「あなたは辞書を複数で使用している場合にはどのような割合ですか。」を設定した。（対象43名）アンケートでは使用している辞書の選択肢を1つにしていたが、複数使用の場合には果たしてどのようになるだろうか。オンライン辞書をオンライン、電子辞書を電子、スマホ等の内臓辞書をスマホと略した。なお、複数人いた場合にはカッコ内に人数を示した。（対象者は43名）

オンライン 100% (3)

オンライン 99% 電子 1%

オンライン 90% 電子 10% (7)

オンライン 90% 電子 紙辞書 10% (2)

オンライン 80% 電子 20%

オンライン 80% 電子 10% スマホ 10%

オンライン	70%	電子	30%		
オンライン	60%	電子	40%		
オンライン	40%	電子	30%	紙辞書	30%
オンライン	40%	電子	60%		
オンライン	40%	電子	10%	紙辞書	50%
オンライン	30%	電子	30%	紙辞書	40%
オンライン	30%	電子	70% (4)		
オンライン	30%	電子	50%	紙辞書	20%
オンライン	30%		スマホ	70%	
オンライン	20%	電子	80% (2)		
オンライン	20%	電子	50%	紙辞書	30%
オンライン	10%	電子	90%		
オンライン	5%	電子	95%		
オンライン	5%	電子	85%	紙辞書	10%
オンライン	0%	電子	80%	スマホ	20%
オンライン	0%	電子	60%	スマホ	40%
オンライン	0%	電子	60%	紙辞書	40%
オンライン	0%	電子	0%	スマホ	90%
オンライン	0%		スマホ	100%	
オンライン	0%	電子	20%	スマホ	80% (2)
オンライン	0%	電子	100% (2)		
オンライン	0%	電子	70%	紙辞書	30%

43名中、全くオンライン辞書を利用していないのは8名であるため、わずかでもオンライン辞書を利用しているのは全体の81.4%、60%以上がオンライン辞書と回答している割合は全体の37.2%であった。この結果はQ1の結果と一致しないが、それにはある程度推測できる。英語の授業だけでなく、広く一般的に使用した場合がこの問いの趣旨となる。ここ

で注目したいのことはオンライン辞書を利用している学生が 80%以上いるということだ。今回の調査では設問として設定しなかったが、オンライン辞書の利用 0%の学生が全くオンライン辞書を知らないかどうかとういことだ。また 3 種類の辞書を併用している学生の割合が 30.2%いたことも「ほっと」した内容だ。

紙辞書、電子辞書、オンライン辞書にしる、わからないことがあれば調べ、確認することが重要であることは言うまでもないことだ。人が一目見たときの情報量は紙辞書が圧倒的に多いことは確かであり、調べたい単語に辿り着く時間は電子辞書の方が速いかもしれない。如何にたくさん単語量を備蓄しているかという情報量だけを見れば、オンライン辞書は無敵だ。学生はそれぞれの特徴を理解しながらも、あえて紙辞書を使う、電子辞書を使う、オンライン辞書を利用しているのが現状である。

3 2020 年&2021 年の調査から見えるもの

2020 年度の授業は筆者が担当した 2 つの大学の英語の授業は年間を通して遠隔授業となった。筆者の科目だけでなく、学生はこれまでの対面授業以外に、遠隔授業を体験したことになる。しかもこれが一過性のものではなく、年間を通してとなると遠隔授業に対する姿勢や準備も大いに変わって来るものだ。

当初、学生の方も漠然とした捉え方であったものが、すべての授業が遠隔ともなれば、当初はスマホで対応していた学生も、画面が小さいためにこれでは十分に対応しにくいために、タブレットや PC を活用するなどに徐々に移行している例も見られた。これまで YouTube や Instagram をはじめとしてコミュニケーションツールとして活用していたインターネットを遠隔授業として活用するという体験もほとんどの学生が初めてであったろう。

2017年から2019年までのオンライン辞書の活用は19.6%（2017）、10.2%（2018）、11.6%（2019）であったものが、2020年は29.5%にまで跳ね上がった。2021年は23.2%である。2020年は10月、2021年は4月に調査を行ったため、遠隔授業になれた1年生が10頃にオンライン辞書の利用者が増加することは予想できることでもある。2017年にオンライン辞書の活用が多かった理由は不明である。考えられることは、大学2年生のみ調査であったため、大学1年生時の授業などでオンライン辞書に関して触れた可能性も否定できない。2020年度の授業はCOVID-19の影響により遠隔授業となったため、インターネットの活用が異常に増えたこと、これまで以上にインターネット検索が増えたことが原因である。この反動で電子辞書の活用率が下がった。2020年度の調査を10月に行ったことも大きな原因がかもしれない。

2020年度と2021年度の調査では英語の2科目の調査の平均である。その内訳は以下の通りである。

[2020年度実施内訳]

- ・Reading & Writing を中心にした科目で、英語のエッセイなどを課題として提出することが求められている2年生の科目。

紙辞書	活用率	0.0%
電子辞書	活用率	15.4%
スマホ等	活用率	38.5%
オンライン辞書	活用率	46.2%

- ・Reading & Writing を中心にした科目で、英語のエッセイなどを課題として提出することが求められている1年生の科目。

紙辞書	活用率	22.7%
電子辞書	活用率	40.9%
スマホ等	活用率	22.7%
オンライン辞書	活用率	13.6%

[2021 年度実施内訳]

- ・ Reading & Writing を中心にした科目で、英語のエッセイなどを課題として提出することが求められている 2 年生の科目。

紙辞書	活用率	0.0%
電子辞書	活用率	53.9%
スマホ等	活用率	11.5%
オンライン辞書	活用率	34.6%

- ・ Reading & Writing を中心にした科目で、英語のエッセイなどを課題として提出することが求められている 1 年生の科目。

紙辞書	活用率	5.9%
電子辞書	活用率	41.1%
スマホ等	活用率	47.1%
オンライン辞書	活用率	5.9%

調査内容に反映されていないが、同日に Speaking&Listening を中心に進める 2020 年度と 2021 年度 2 年生の科目でも同じ内容の調査を行ったが、オンライン辞書の活用率は 27.3% (2020 年度)、9.5% (2021 年度) であった。Writing がメインでない授業においては英語に関してはオンライン辞書の活用が増加しているかどうかは、一概に言えない。しかし、Writing を中心とする 2 年生の授業では紙辞書の活用率が 2 年連続で 0% という結果も時代の流れと遠隔授業が反映されているのだろう。自宅で授業を受けることから、紙辞書の活用が増えるという予想もあるが、紙辞書自体を持っていない学生もいるのが現状だ。また、2020 年前期から始まった遠隔授業により、学生にも様々な変化が現れていることは辞書の利用を見ただけでもその一端が伺える。

4 デジタル認知症

電子辞書、スマホ内蔵辞書、オンライン辞書では学生から「すぐに忘れる」など、記憶に残りにくいという記述があることだ。これはメモ書きができないという事と実は大きな関係にあるのではないかとの推測している。デジタル系のツールについては「メモ書きができない」と言う内容が目立つことも注目すべきかもしれない。調べた内容を覚える、記憶にとどめるのに、学生自身も「メモ書きする」「下線を引く」などの作業により、調べた単語の意味や例文については記憶に留めようと考えている。これは何を意味するのだろうか。スマホ内蔵辞書、電子辞書、オンライン辞書は手軽に調べることが最大の特徴であり、調べた内容を記憶にとどめることよりも、とにかく即効性で調べることに注意が注がれていることが多い。インターネット上のセキュリティ通信 編集部「若者が危ない？今急増する『デジタル認知症』とは？」(2019.12.20)では次のような説明がある。

デジタル認知症とは、デジタル機器（スマホやPCなど）の使いすぎによる情報のインプット過多や機器に対して依存してしまうによって、記憶力・集中力・注意力の低下や言語の障害といった認知症と同じような症状が発生する状態のことです。

認知症と症状が似ているため「デジタル認知症」と名づけられていますが、病気としての認知症とは異なり、したがって病気に分類されるものではありません。

デジタル認知症は一時的な記憶障害にあたるものですが、「若い人ほど影響を受けやすく、悪化すると65歳未満で発症する若年性認知症につながる」と言われており脳に悪影響を与え健康を蝕む症状といえます。

一般的にデジタル認知症ではデジタル機器からの情報過多、依存が取り

上げられる。ここではむしろ、デジタル機器と人間の記憶との関係が重要であると考えている。

- ・手書きでメモをとる
- ・タブレットやパソコン、写メでメモをとる

この違いが学習上どのような影響があるのか。この影響は紙辞書を使うこと、電子辞書やオンライン辞書を使うことと延長線上にある流れである。筆者が学生の頃には簡単な例として携帯電話がない頃は自宅以外に友達の電話番号などをかなり覚えていて、公衆電話などからよくかけていた。しかし、携帯電話を使用するになると、リダイヤル機能や内蔵される電話帳機能により電話番号を覚える必要がなくなり、出来るだけ多くの電話番号の情報をインプットすることの方が重要になる。手書きでノートを取る時、特に、授業中に先生の言った内容をまとめようとする時には速記のようにして書くのではなく、話しの内容を理解し、その上で書くことという作業が入る。どのような漢字を使用するかも、前後の関係から理解しながら書くことになる。まとめる段階ですでに一度整理されていることになる。写メの場合には内容よりも撮影することが優先される。手書きのノートでなく、パソコンでそのまま打ち込む場合には、考えながら打つというよりは、機械的に言葉をインプットするための作業になってしまうことが多い。レポートなどを書く場合にもパソコンの場合にはコピペは便利であるが、内容を理解してコピペするとういよりは、自分が求めている内容がこのあたりと書いてあるという見当で行うことが多いのではないだろうか。

デジタルは調べる速さ、その範囲は驚異的であるが、内容を理解し、自分のものとして定着するには時間がかかるということだ。辞書利用状況で学生が頻繁に触れている、「メモ書きができない」「下線がひけない」などのことは、記憶の定着に大きな影響を及ぼしているということなる

のではないだろうか。ビジネスシーンを想定しているものであるが、曾根原士郎・齋藤敦子「情報記録手法と記憶定着・理解度の関係についての実験報告～手書き記録時とキーボード記録時の差異について～」(2010)では次のような結論が導き出されている。

ビジネスシーンでは単純な 5W1H を中心とした情報にとどまらず、より高度で複雑な業務情報の口頭指示・説明の記録・記憶が正確且つ要点を押さえてスピーディーに行われる事が求められる。この必然性への対処方法として教育の現場で培われ訓練されてきた手書き記録手法とそれをベースとした記憶定着効果は疑うところではない。今回 PC を使った記録・記憶手法と合わせて、対象情報が複雑になるほど、記録媒体を使わない場合との記録・保持・想起の差は明確であり、現実のビジネスマン、ビジネスシーンにおいても、業務情報を「記憶にとどめる、理解する」為には「(手書き/PC 問わず)記録する」事は必須である事が本実験結果からも見て取れる。(曾根原・齋藤 37)

手書き、PC 問わずメモを取ることが重要であることは一目瞭然だ。しかし、ここで注目すべきは、手書き記録・記憶手法は長い期間教育現場で培われてきた成果ではないかということだ。PC を使った記録記憶手法が手書きと同様に教育現場で培われた場合にはどのような効果が出るかは現段階では判断できない。このことはおそらく電子教科書を使い、タブレット上でタッチペンなどでメモを取りデジタルノートで記録を残すといった、アナログとデジタルのハイブリッド記録・記録手法の記憶への定着度などへの期待が寄せられよう。単に紙辞書を使う、電子辞書を使う、オンライン辞書を使うという単体での判断よりも、TOP に応じて媒体の使い分けなどが進む可能性があるのではないだろうか。実際に筆者が行ったアンケートを見ても、3 種類の辞書を使い分けている学生が 80%以上いること、23.4%の学生が紙辞書を適宜使用していることか

らも、学生自身がアナログをデジタルを意識していることがわかる。また、紙辞書の特徴として書き込みやマーカーが引けるなどを指摘していることから、学生自身もこの「手書き」による効果は体験から理解している。

5 デジタル化は進むか

2020 年は COVID-19 により遠隔授業などもせざるを得ない状況になった。また、その影響は 2021 年も続いている。「国際化する」は internationalize、「デジタル化する」は digitize はそれぞれ他動詞である。これは外的要因により、それが進むことを意味することになる。日本は新しいことを取り入れようとすると既存の枠組みを否定したような印象もあること、新しいことはこれまで社会を支えて来た比較的年輩の人達が理解するのが難しいもの、これまでの慣例や価値観とは異なることも多いため、すぐに根付くことが難しい状況がある。変えるとういことは前の価値観を否定するような印象を強く持つ場合もある。

Zoom, Meet, Skype をはじめ、双方向性の遠隔授業はネット環境と機材さえあれば、それほど難しい知識がなくてもできるところまで整備されている。これを全面に押し出していない場合の理由で最も多いのがネット環境だろう。ネットを経由すれば費用も掛からないが、これを電話回線でするとなれば、その費用は想像がつかない。

2020 年 9 月 16 日に新しく菅内閣が発足すると、新しくデジタル庁の設置が政策として打ち出された。2022 年 4 月の発足を目指しているが、今後動向により早まるかもしれない。

菅内閣が国民にアピール分かりやすい目玉の政策のうち、通信関係では、第 1 に携帯料金の値下げ、第 2 にデジタル庁の設置ということになるだろうか。筆者はこれについて既存の政策の検証もなされないまま進むことに不安を感じる。学校教育を除いてみてもしかりだ。文部科学省

「令和元年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（概要）」（令和2年3月現在）では以下の通りである。

1	教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	4.9人（2020年3月1日） 5.4人（2019年3月1日）
2	普通教室の無線LAN整備率	48.9%（2020年3月1日） 41.0%（2019年3月1日）
3	インターネット接続率 （30Mbps以上）	96.6%（2020年3月1日） 93.9%（2019年3月1日）
4	指導者用デジタル用教科書整備率	56.7%（2020年3月1日） 52.6%（2019年3月1日）
4	学習者用デジタル用教科書整備率	7.9%（令和2年3月1日） 記載なし（平成31年3月1日）

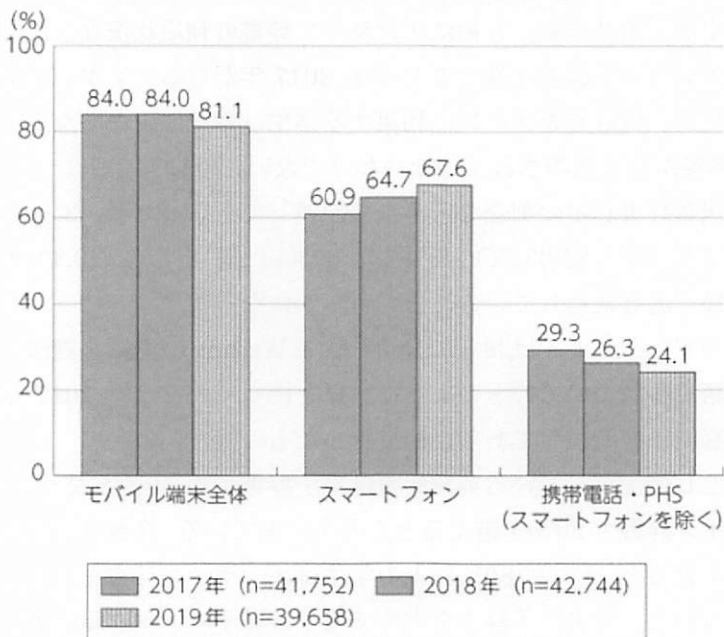
調査対象は全国の公立学校（小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校）である。

進まない学校のIT化・デジタル化については2007年での渡辺誓司・小平さち子の指摘においても進まぬ学校のパソコン環境が取り上げられている（渡辺・小平 23・24）。こうした状態は今に始まった話ではない。確かに整備は進んだものの、2020年のCOVID-19における学校における遠隔授業への対応を見れば明白だ。仮にPCとインターネット環境が整っても、これを使いこなす教員側の問題もある。

こうした現状の中、2020年より小学校でプログラミングの学習がスタートしたのである。新しいものを次々と導入はされているが、教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数、普通教室の無線LAN整備率、学習者用デジタル用教科書整備率をみれば、日本のICT教育が進んでいるのかと言えば、大きな疑問が残る。

身近なところでは確かにデジタル化は進んでいる。総務省『通信利用動向調査』を出典にまとめた携帯電話・スマートフォンの保有率については総務省『令和2年 情報通信白書』では次のように発表されている。それを見ると、生活レベルで最も身近なデジタルツールはすでに定着していることになる。

図表 5-2-1-2 モバイル端末の保有状況（個人）



本誌の印刷がモノクロのため判別しにくいですが、左から2017年、2018年、2019年のデータになっている。スマートフォン+携帯電話・PHSとすれば、2017年以降はすべて90%以上の保有率になっており、その内訳としてスマートフォンが微増しているということだ。

森喜朗内閣の時に打ち出されたIT革命、すなわち、2001年のe-Japan戦略からこの20年の間にインターネットは確かに想像を超えた定着振

りを見たことだろう。教育の世界、特に初等・中等教育ではどうだろうか？児童・生徒は教育とは関係のところすでに IT 化している。それはゲームであったり、携帯・スマホを使いこなしている一方、レポート作成に伴うスキルについては必ずしも身につけてはいない。

エピローグ

本稿では「英語辞書」を軸にオンライン辞書の利用状況などについて過去のアンケート調査を基にまとめた。2017年からのアンケート調査を基にしたが、紙辞書をメインに利用する学生は極端に少なくなっているが、紙辞書が全く使用されていないわけでない。2021年のアンケート調査では複数辞書利用の割合などを自由記述してもらったが、3つの辞書をハイブリッドで使用している学生は80%以上いること、23.4%の学生が紙辞書を適宜使用していることが明らかになった。

今回のアンケートではおもに Reading & Writing の授業を履修する学生が英語辞書についてのどのような意識を持っているかを 2017 年度以降の調査結果を踏まえてあらためて行ったものだ。

主流として使用している英語辞書は電子辞書が約 50%となっており、オンライン辞書も 20%を越えるところまで来ている。複数での英語辞書の利用を見ると、すでに 80%以上の学生はオンライン辞書を利用している結果なった。学生は手軽さを求めて電子辞書やスマホ内蔵辞書なども積極的に活用している一方で、それぞれの長所と短所を理解しながら、ハイブリッドで使用していることもわかった。一方で紙辞書を使う方が記憶に残りやすいことも学生は体験から認識しており、このことは手書きによる記憶の定着による論文の考察からも明らかなことだ。

学生を指導する立場としては学生の利用の減っている紙辞書の長所とこれから利用率がさらに伸びるであろうオンライン辞書の活用方法を授業などで取り上げることで、媒体による違いからくるそれぞれの特徴を

おり深く理解させ、よりより英文エッセイの指導に役立たせたい。

引証資料

佐々木隆 a(2011). 『英語教育の行方』、イーコン。

佐々木隆 b(2017). 「英語教育の現状報告—授業の実践例から—」、『武蔵野教育研究』、第3巻第4号、武蔵野教育研究会。

佐々木隆 c(2017). 「教職課程の英語学に関する一考察」、『武蔵野教育研究』第3巻第5号、武蔵野教育研究会。

佐々木隆 d(2017). 「教育実践例 英語の語彙等に関する学生の意識—英語学の視点から—」、『武蔵野教育研究』第3巻第12号、武蔵野教育研究会。

佐々木隆 e(2020). 「英語辞書に関する学生の意識について」、『新教育課程研究』第12号、武蔵野教育研究会。

セキュリティ通信編集部(2019). 「若者が危ない？今急増する『デジタル認知症』とは？」

(https://securitynews.so-net.ne.jp/topics/sec_20040.html) (2021年3月16日アクセス)

総務省 (2021). 『令和2年 情報通信白書』

(<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r02/html/nd252110.html>) (2021年4月15日アクセス)

高橋渉、酒井英樹、田中江扶、金子史彦、田中真由美、Colleen Dal、津金俊文、小泉一輝、戸谷裕美子他 (2014). 「英語教育における辞書の活用—新学習指導要領に対応して—」、『教育実践研究』、第15号、信州大学教育学部附属教育実践総合センター。

文部科学省(2020). 「令和元年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果 (概要)」(令和2年3月現在)、(https://www.mext.go.jp/content/20201026_mxt_jogai0100009573_1.pdf)(2021年3月17日ア

クセス)。

渡辺誓司・小平さち子(2007)。「デジタル時代の教育とメディア① 学校教育現場のデジタル化とメディア利用の展開～2006年度 NHK 学校放送利用状況調査から～」、『放送研究と調査』、第 57 巻第 5 号、NHK 放送文化研究所。

【キーワード】 英語辞書、紙辞書、電子辞書、スマホ内蔵辞書、オンライン辞書、デジタル認知症

執筆者一覧

佐々木 隆 武蔵野学院大学教授

新教育課程研究 第23号
2021年5月30日 発行
武蔵野教育研究会 編集・発行

〒350-1328

埼玉県狭山市広瀬台3丁目26番1号

武蔵野教育研究会事務局

武蔵野学院大学 佐々木隆研究室

Studies on New Curriculum

Number 23

30 May, 2021

The Society of Musashino Education Studies